2026年11月20日

各　位

会社名　　株式会社イオレ
代表者名　　代表取締役社長兼CEO　　瀧野 諭吾
（コード：2334、東証グロース）
問合わせ先　　執行役員 CFO　　貞方 渉
（TEL.050－5799－9400）

ソフトバンク株式会社とのAIデータセンター・GPU計算資源の相互販売に向けた業務連携に関するお知らせ

当社は、本日、ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）との間で、両社が保有・運営・管理するAIデータセンターおよびGPU計算資源を相互に販売する業務連携（以下「本連携」）について合意いたしました。また、その第一弾として、ソフトバンクが提供する「AIデータセンター GPUサーバー」および「Cloud PF Type A」の利用権の販売に関する取引基本契約（以下「本契約」）を締結し、本日より、国内外の法人・事業者および販売代理店に対する同利用権の販売を開始いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．業務連携の理由

生成AIおよびAIエージェントの急速な普及に伴い、AIモデルの学習・推論に必要となるGPU計算資源への需要は世界的に拡大しております。一方、AI計算基盤の整備には、GPUサーバーの確保に加え、大規模な電力、データセンター設備、冷却設備、高速ネットワーク、運用体制等を一体として構築する必要があり、顧客が必要とする計算資源を、必要な場所・規模・期間で迅速に確保することは容易ではありません。

当社は、電力、データセンター、冷却、ネットワーク、GPU、運用基盤までを統合した「AI 計算力」の提供を事業の中核に据え、戦略的パートナーであるデジタルダイナミック株式会社と連携し、GPU サーバーの調達・販売から国内データセンターへの配備、AI計算力の提供へと事業領域を広げるとともに、国内各地でAIデータセンターの開発を進めてまいりました。

本連携により、自社の設備投資に加えてソフトバンクの AI 計算基盤を当社の提供メニューに含めることで、より大規模で多様な AI 計算需要に応えることが可能となります。同時に、当社が保有・運営・管理するGPUおよびデータセンターについても、ソフトバンクの顧客基盤を通じて販売機会を広げ、設備稼働率と計算資源の販売効率の向上を図ります。

当社は、両社の AI インフラを相互販売するにとどまらず、異なる事業者が保有する GPU 計算資源を横断的に流通させる「AI 計算力の流通基盤」を構築することを通じて、ネオクラウド事業化に向けた AI 計算力提供事業を拡大してまいります。

２．業務連携の内容等

（１）本連携の内容

本連携において、両社は主に以下の取り組みを推進いたします。

・ソフトバンクが提供するデータセンターおよびGPU計算資源の、当社顧客に対する販売・提案（第一弾として本日開始）
・当社が保有・運営・管理するデータセンターおよびGPU計算資源の、ソフトバンクの顧客に対する販売・提案
・大規模GPUクラスターや専有型AI計算環境など、顧客ニーズに応じた共同提案

・両社の AI 計算基盤を組み合わせた、複数拠点・複数 GPU 環境からなる計算資源の提供体制の構築
・将来的な AI データセンター、GPU クラウドおよび関連サービスにおける協業の検討

これにより、顧客に提供できる GPU の種類・規模・ロケーション・提供期間の選択肢が広がり、単体の GPU サーバーから大規模 GPU クラスター・専有型の計算環境まで、最新世代の GPU に加え、今後投入される次世代 GPU も見据えて、顧客の計画に合わせた計算資源を提供いたします。

（2）第一弾の取り組み（本契約に基づく利用権販売）の概要

対象サービス	「AI データセンター GPU サーバー」および「Cloud PF Type A」（いずれもソフトバンク提供）
「AI データセンター GPU サーバー」の概要	「NVIDIA DGX A100」「NVIDIA DGX H100」に、企業向け AI ソフトウェアプラットフォーム「NVIDIA AI Enterprise」およびジョブスケジューラー「Slurm」をセットアップして提供するサービスです。 ・1 台から複数台まで広帯域クラスター構成で専有利用が可能 ・最短 7 日からのスポット利用が可能 ・NVIDIA AI Enterprise、Slurm、NGC Private Container Registry を標準付帯
「Cloud PF Type A」の概要	ソブリン性を備えたクラウドサービスです。「NVIDIA HGX B200」を採用した高性能 GPU サーバーを提供し、データ主権や機密性を担保しながら企業独自の AI 学習を行うことが可能です。 ・東日本・西日本の国内 2 リージョン体制（BCP・DR 対応） ・「Oracle Alloy」を採用し、OCI の技術を活用した IaaS・PaaS 等を提供 ・ソフトバンクによる国内運用・サポート
主な提供先	LLM の学習・推論、AI エージェント開発等、大規模な AI 基盤を必要とする国内外の企業
提供 GPU の拠点	非公開（いずれも国内）

３．業務連携の相手先の概要

(1)	名称	ソフトバンク株式会社
(2)	所在地	東京都港区海岸一丁目 7 番 1 号
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役 社長執行役員 兼 CEO　宮川 潤一
(4)	事業内容	移動通信サービスの提供、携帯端末の販売、固定通信サービスの提供、インターネット接続サービスの提供
(5)	資本金	244,355 百万円（2026 年 3 月 31 日現在）
(6)	設立年月日	1986 年 12 月 9 日
(7)	大株主及び持株比率	ソフトバンクグループジャパン株式会社　40.01% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）　9.81% 株式会社日本カストディ銀行（信託口）　3.69% （2026 年 3 月 31 日現在）
(8)	上場会社と当該会社との間の関係	資本関係：　該当事項はありません。 人的関係：　該当事項はありません。 取引関係：　本契約に基づく取引を除き、該当事項はありません。 関連当事者への該当状況：　該当事項はありません。

(9) 当該会社の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態（IFRS）

決算期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
親会社の所有者に帰属する持分	2,377,074	2,743,630	2,957,859
総資産	15,521,906	16,102,195	18,502,175
1株当たり親会社所有者帰属持分（円）	47.97	50.96	55.13
売上高	6,084,002	6,544,349	7,038,680
営業利益	876,068	989,016	1,042,576
税引前利益	805,912	880,057	930,022
親会社の所有者に帰属する当期利益	489,074	526,133	550,759
基本的1株当たり当期利益（円）	10.32	10.99	11.35
1株当たり配当金（円）	8.60	8.60	8.60

（単位：百万円。特記しているものを除く。）

（注）出典：同社2025年3月期および2026年3月期の決算短信〔IFRS〕（連結）。同社は2024年10月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っており、1株当たり指標は当該株式分割が2024年3月期の期首に行われたと仮定して算定しています。

４．日程

(1) 本連携の決定日	2026年11月20日
(2) 本契約締結日	2026年11月20日
(3) 本連携に基づく事業開始日	2026年11月20日（第一弾：利用権の販売開始）

５．今後の見通し

当社は今後、国内各地で進めるAIデータセンター開発とGPU計算基盤の拡充を進めるとともに、自社保有設備に限らず、国内外のデータセンター事業者、通信事業者、GPUクラウド事業者等との連携を広げ、需要に応じて最適な計算環境を提供できる仕組みを構築してまいります。ソフトバンクとは、当社の計算資源をソフトバンクの顧客へ販売する取り組みについても協議を進め、共同提案や大規模GPUクラスターの提供体制の構築を目指します。

なお、本連携が当社の当期連結業績に与える影響については現在精査中であり、今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

※記載されている会社名、製品名は、一般に各社の登録商標または商標です。

以　上